

平成30年度 健康保険組合全国大会開催!

**STOP現役世代の負担増!
改革の先送りは許さない!!**



次世代へ安心できる制度の確保に向け、改革の早期実現のために全国の健康保険組合が、平成30年10月23日、東京国際フォーラムに参集し、「平成30年度健康保険組合全国大会」が開催されました。当日は約3,500人の健保組合関係者が参集し、「健康」「安心」そして皆保険制度を守り抜くため、改革の早期実現を求める決議を満場一致で採択しました。

大会で決議された内容の要旨と採択された4項目に関して皆さまにご報告いたします。

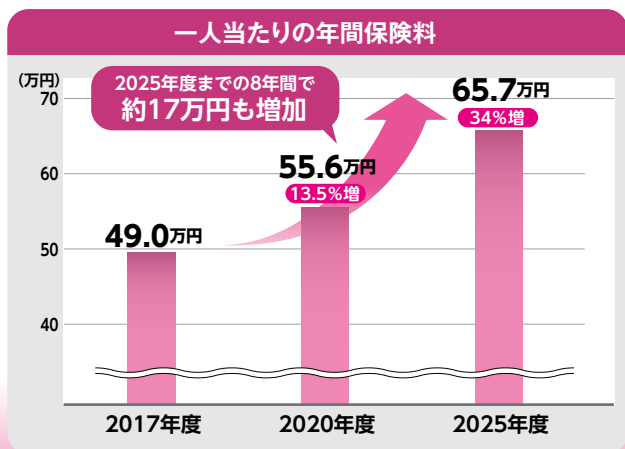
わが国の国民医療費は急速な高齢化や医療の高度化等により増加の一途を辿っており、特に高齢者の医療費は全体の約6割を占め、これを支える現役世代の負担は際限なく増えている状況にあります。

健保連の推計では、団塊の世代が後期高齢者になる2025年度には国民医療費が58兆円に増加し、支える側も生産年齢人口の減少により被保険者1人当たりの年間保険料は2017年度に比べ約17万円も増加します。現状、すでに現役世代の負担は限界に達しており、今後これをさらに大きく超えることは確実です。皆保険制度の持続性を高め、国民の安心を確保するためには現役世代に偏った負担の不均衡を是正する「高齢者医療費の負担構造改革」を断行し、公平な負担による「全世代型の社会保障制度」の実現を目指す必要があります。

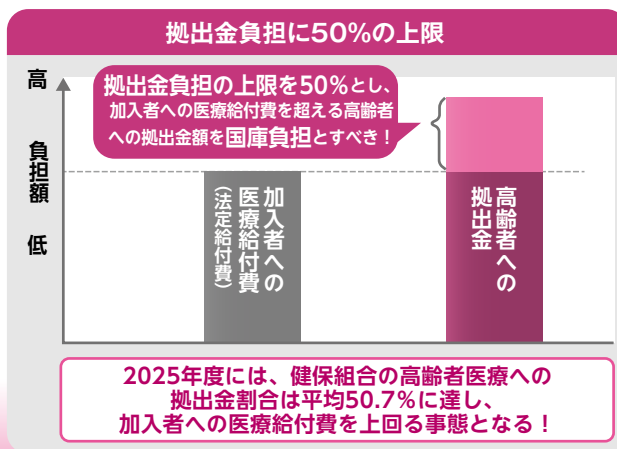
健康保険組合は、これまで自主・自立の精神のもと、労使と一体になって、加入者の実態に沿ったきめ細かい健康保持・増進、疾病予防などの効果的・効率的な保健事業を展開してきました。今後もデータヘルスや健康経営などを強力に推進し、従業員とその家族の健康と安心を守るとともに、持続性のある制度の確立に向けた取り組みを粘り強く進めていきます。

改革の先送りは許さない。全国の健康保険組合の決意と覚悟を示し、右の4項目の実現を期し組織の総意をもって決議しました。

- 拠出金負担に50%の上限、現役世代の負担に歯止めを
- 高齢者の2割負担など負担構造改革の早期実現
- 実効ある医療費適正化対策の確実な実施
- 保健事業の推進による健康寿命延伸と社会保障の支え手の確保を



(2017年度は決算見込、2020年度と2025年度は健保連推計による)



データヘルス計画

健康保険組合は事業主(会社)と協働して健康づくりを応援します!

被保険者の「メタボ領域流入抑制」と「重症化予防」に向けて アドバイスシートを送付いたします

当健康保険組合では、データヘルス計画の一環として、健康に対する気づきを促し、生活習慣を見直すことを目的とした保健事業「メタボ予測分析(メタボ領域流入抑制)」と「非メタボ(重症化予防)対策」を事業主(会社)と連携して実施しております。

今年度も、被保険者の方を対象に、過去3年間の健診結果(会社の定期健康診断や人間ドックの特定健診結果)から、今後メタボになる可能性の高い予備群の方と血圧・血糖・脂質が基準値以上の重症化リスクのある方に、生活習慣改善に向けた専門職的確なアドバイスを記載した「アドバイスシート」を送付します。

アドバイスシートは、1月下旬~2月に事業主(会社)経由で個人宛てに送付されますので、受け取られた方は、今一度ご自身の生活習慣を振り返り、次回の健診に向けて、アドバイスを参考に改善に向けたアクションを取るようにしましょう。